

国語問題

月 日

①漢字

●(一)～(三)は傍線部の読みを、(四)(五)は傍線部と同じ読み方をするものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。

□(一) 何度も試みる。

- [①こころ ②かえり
③かんが ④かえし]

1
(一)

□(二) 快い風が吹く。

- [①ここちよ ②こころよ
③すずし ④つめた]

2
(二)

□(三) 都合を聞く。

- [①とごう ②つこう
③しゃごう ④つごう]

3
(三)

□(四) 明けの明星。

- [①説明を読む。 ②明朝、公園に集合。
③明快な答え。 ④明細書を受け取る。]

4
(四)

□(五) 必死の形相。

- [①形容詞を学ぶ。 ②形式的なあいさつ。
③円形を作る。 ④大切な人形。]

5
(五)

●(六)～(十)の傍線部と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。

□(六) キョウ里に帰る。

- [①故キョウの料理。 ②キョウ敵が現れる。
③鉄キョウの工事。 ④母のキョウ台。]

6
(六)

□(七) 通キョウを保管する。

- [①日本海のキョウ流。 ②キョウ子が悪い。
③キョウ面に記入する。 ④県キョウに出向く。]

7
(七)

□(八) 席をタつ。

- [①消息をタつ。 ②歯がタたない。
③大きなビルがタつ。 ④電源をタつ。]

8
(八)

□(九) 成功をオサめる。

- [①国家をオサめる。 ②税金をオサめる。
③学問をオサめる。 ④利益をオサめる。]

9
(九)

□(十) 借金をセイサンする。

- [①過去をセイサンする。 ②大量セイサンをする。
③運賃のセイサン。 ④セイサンがある。]

10
(十)

② 国語知識

● 次の(一)～(五)の間に答えなさい。

□(一) 次の(a)～(c)のことわざの意味を、あとの①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (a) 一寸の虫にも五分のたましい
 (b) ちりも積もれば山となる
 (c) 三人寄れば文殊の知恵

| | |
|---|-----|
| 1 | (a) |
| 2 | (b) |
| 3 | (c) |

- ① わずかなものも積み重なれば大きなものになるということ
 ② 三人で協力すれば、よい知恵が出てくるものだという教え。
 ③ どんなに小さく弱いものにもそれ相應の意地があるという
 こと。

④ 多くの中から特に選び出されること。

□(二) 次の(a)(b)と似た意味の四字熟語を、あとの①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(a) 一石二鳥 (b) 前代未聞

| | |
|---|-----|
| 4 | (a) |
| 5 | (b) |

- ① 空前絶後 ② 試行錯誤 ③ 我田引水 ④ 一挙両得

□(三) 次の(a)(b)の文の文節数を、あとの①～④の中からそれぞれ選びなさい。

- (a) 姉は毎日熱心にピアノの練習をしている。
 (b) 私の家は小高い丘の上にある。

□(四)

① 四 ② 五 ③ 六 ④ 七

次の(a)(b)の文を単語に区切ったものとして正しいものを、①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(a) ぼくの自転車が壊れてしまった。

① ぼく／の／自転車が／壊れて／しまった。
 ② ぼく／の／自転車が／壊れて／しまった。
 ③ ぼく／の／自転車が／壊れ／て／しまった。
 ④ ぼく／の／自転車が／壊れ／て／しまつた。

| | |
|---|-----|
| 8 | (a) |
|---|-----|

(b) 春になると、かすかに花の香りがする。

- ① 春に／なると、／かすかに／花の／香りが／する。
 ② 春に／なると、／かすか／に／花の／香りが／する。
 ③ 春に／なると、／かすかに／花の／香りが／する。
 ④ 春に／なると、／かすか／に／花の／香りが／する。

| | |
|---|-----|
| 9 | (b) |
|---|-----|

□(五)

次の文の傍線部と二重傍線部の文節どうしの関係として正しいものを、あとの①～④の中から選びなさい。

- 兄たちは、毎年夏になると、いなかの祖母の家に遊びに行く。
 ① 主語・述語の関係 ② 修飾・被修飾の関係
 ③ 並立の関係 ④ 補助の関係

| | |
|----|-----|
| 10 | (五) |
|----|-----|

③ 古文

● 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

* かたち殊ことに瘦やせくろみてわたらせ給たまふお大名だいみやうありしが、* 近習きんじゆの侍さかひにむかはせたまひ、「⁽¹⁾予よが顔かほが猿さるに似たと、人ひとみないふと聞いたが、まことか、うそか」。臣おみうけたまはりて、「これは勿もつた体たいなき御ご誕だんに候まう。たれやの人ひとさやうの事ことをば申し上げけるぞ。世よ上じやうにはただ猿さるが顔かほが、殿との様に似たとこそ申し候まうへ」。大だい5 名聞なもんき給たまひて、「⁽²⁾ゆゆしくも⁽³⁾申したり。* さこそは侍はべらんず」とて、⁽⁴⁾いささかも憤いらいり無なかりしは、下劣げれつの申しならはす、「* 大名だいみやうは大耳だいじ」なれや。

〔「醒睡笑」による〕

注 * かたち…顔かたち。顔つき。

* くろみてわたらせ給ふ…色が黒くていらつしやる。

* 近習の侍…そば近くに仕える侍。

* 勿体なき御誕に候…おそれ多い仰おほせごとにございます。

* 世上…世間。

* ゆゆしくも…よくぞ。

* さこそは侍らんず…その通りであろう。

* 下劣の申しならはす…しもじもの者が申し伝える。

* 大名は大耳…〈大名はささいなことは耳にとめないほど

おおらか〉という意味の諺。

□(一) この場面の登場人物の人数として最も適切なものを次の①～④から選び、記号を書きなさい。

- ① 二人 ② 三人 ③ 四人 ④ 五人

1
□(一)

□(二) 傍線(1)「むかはせたまひ」を現代仮名遣いに直したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、記号を書きなさい。

- ① むかわせたまひ ② むかあせたまひ
③ むかはせたまい ④ むかわせたまい

2
□(二)

□(三) 傍線(2)の意味として最も適切なものを次の①～④から選び、記号を書きなさい。

- ① だれ ② わたし ③ 人々 ④ あなた

3
□(三)

□(四)

傍線(3)の主語として最も適切なものを次の①～④から選び、記号を書きなさい。

- ① 大名 ② 臣 ③ 人 ④ 下劣

4

(四)

□(五)

傍線(4)は「少しも怒らなかつた」という意味ですが、その理由として最も適切なものを次の①～④から選び、記号を書きなさい。

- ① 「猿の顔が大名の顔に似ている」という取りなしを受け入れたから。
② 「大名の顔は猿の顔に似ていない」と家来がなぐさめてくれたから。
③ 「大名は細かい事は気にしない大人物だ」としもじも者がほめたから。
④ 「大名の顔が猿の顔に似ている」と人々が言っているというのほうそだったから。

5

(五)